

第五回 彦根市シティプロモーション戦略策定委員会 議事録

◆日時:2019年1月25日(金)13時30分～15時30分

◆場所:大学サテライト・プラザ彦根(C教室)

◆参加者:

<委員(リスト順・敬称略)>

出席:上田洋平／小椋昭代／柴田雅美／松居智和／宗田好史／橋本昌子／馬場完之／丸山武志

<事務局>

彦根市:シティプロモーション推進課 課長・疋田／同課長補佐・平尾／木田

株式会社いろあわせ:北川／図司／井上

<傍聴人>

4名

1. 開会

上田委員長 挨拶

2. 彦根市シティプロモーション戦略案について

①推進体制について

【事務局:彦根市】

ー 彦根市シティプロモーション戦略案の推進体制・関係図について説明

【柴田委員】

捉え方によれば「彦根市のシティプロモーションは市民で勝手に進めます」という風なメッセージに聞こえる。市としてどう動いていくのかという、意思をもう少し伝えなければ、市民からリーダーシップの諦めという風に捉えられかねないので注意が必要。

【事務局:彦根市】

市民が主体的に取り組めるシティプロモーション戦略を考えるにあたって、市がどこまでリードするのかという問題は当初からの懸案であったが、これまでの委員会での議論では、行政が表立って旗振りすると市民が動きにくいのではないかという整理であったと考えている。

【宗田委員】

市長、市役所、商工会議所などのまちづくりに関わるプレイヤーの中で、だれが中心になって進めるのかは、はっきりさせておいた方がよい。京都で自身が関わった例で言うと、事務局(行政)が中心になって進めていた。事務局や現場のコーディネーターがこうあるべきという構図に囚われず、いかに柔軟に市民の意見を取り入れられるか、そして市民が堅苦しいイメージを持たず、楽しく進められるよう見せていく必要がある。

【丸山委員】

一番大切なのは、最後に梯子を外すようなことをしないこと。予算や見えやすい成果などの現実だけを見て途中でやめてしまうのではなく、最後まで責任を持って継続することが大事。成功していると言われる塩尻市でさえ、実は人口は低下している。ただ、行政の中のリーダーがしっかりしていて、継続している姿がきちんと見えるので意義のある活動として伝わってくる。座談会を取り仕切るリーダーの存在も重要と考える。

【上田委員長】

いろんなリーダーシップの形がある。どのような体制で市民を引っ張っていくのか

【馬場委員】

市が最後まで責任を持つと言う約束のもとで進めるべきである。

【橋本委員】

市民に主体的に動いてもらいつつも、計画などの枠組みを整備するのは市。行政側はコーディネーターとしてサポートしていくことが重要。

【松井委員】

市民がフロントに立つとして、そのモチベーションをどう維持するかについても考えておく必要がある。

【小椋副委員長】

関係図は基本的に良いと思う。(主要な機関に)経験者がいて旗振りをするのであれば安心感があるが、そういう方がいないのであれば持続が難しいこともあると思う。

【柴田委員】

いまは受託者(先導役)がいるから進んでいるが、商工会議所などにも事務局があるように、やはり市民だけでは力不足なのだと思う。市がフロントになって組織で運営しなければ継続しないのではないかと思う。

【宗田委員】

お祭りに盛り上がっていく中にもリーダーは必要。最初のリーダーは1人でいいが、何回か座談会を繰り返すうちに、2、3人の中心になる仲間が育っていくことが理想。常に「新しい人が入っても大丈夫」という雰囲気を作り出し、リーダー育成の循環を生んでいくことが大切。

またその流れを踏まえて、どんな組織でも必ず分裂は起こるので、あえて流動的にして、その都度のやりやすい形を考える方が全体の活動が長続きする。流動的で柔軟な姿勢が残っていないと、新しい人が入りにくく循環が生まれにくい。図にある座談会であっても、変えにくい環境を作ってはならない。

【事務局:いろあわせ】

市役所主導では前向きになれない熱い市民の層をどう取り組むかについて、どのように考えればよいか。

【宗田委員】

市役所が出てくると引く人もいるかもしれないが、市役所がやっているから来るという人もいる。その場に来た人に合わせて、色を変えていく柔軟性が必要。いろんな可能性をあえて残しながら、運営をすすめていくとよい。

【柴田委員】

市役所がどうしても消極的になっているように見える。持続可能性の理想的な形があったとして、それを示すだけ示して、あとは市民が頑張ってください、と言われているような気持ちになる。

【宗田委員】

市役所の人々が市民との本質的な協働のためには、積極的にイベントの前後の準備に汗をかいているスタンスを見せる必要もある。

【事務局:いろあわせ】

推進体制や予算など、今後も考慮すべきことはあるが、いま現実的にできる範囲の中で、まずは前向きにどういう環境づくりをしていけば良いかを考え、チャレンジしていくことが重要だと考えている。シティプロモーション推進課の一担当者が熱い思いを持っているだけでは継続は難しい。市民に完全に任せるのではなく、「行政も頑張るので、一緒に頑張ろう」というメッセージは伝えるべきと考えている。

【宗田委員】

こうした座談会のような場では、市民も市役所一般職員も部長も立場関係なく、同じ目線で話し合う空気を作ることが大切である。

【事務局:彦根市】

推進体制図の中で、市の主体的な役割についても盛り込んでいく方向で調整する。

②ブランドメッセージについて

【事務局:いろあわせ】

ー第五回市民ワーキング会議の振り返りと、ブランドメッセージについて説明

【宗田委員】

「彦根の歴史」の言い回しについては、見る専門家によっては突っ込まれることがあるので注意が必要。専門家に相談してみるのも良いのではないか。

【上田委員長】

「歴史が推進力になる」とは、過去を育てていくようなもの。歴史の評価というのは、その時代ごとに振り返り考えていく。一方で歴史に甘えてしまうと惰性になる。伝統とは、隔世していくものであると考えている。

【馬場委員】

歴史にのみフォーカスしてしまうと、メッセージが長くなってしまうのではという懸念もある。今回はブランドメッセージに関してなので、市民にわかりやすい内容で良いかと思う。

【事務局:いろあわせ】

新しく刷新していくことを止めてしまった途端に、歴史は止まってしまうと考えている。市民ワーキング会議では、歴史に詳しい人ばかりではなかったが、みんなで感覚を共有し、彦根はこれまで積み上げてきた歴史を礎にしつつ維新していける土壌であると感じていた。今回その部分は丁寧に表現しなければいけないと感じている。

【松井委員】

これまでの歴史は大切にしつつ、ブランドメッセージに落とし込む際は、一般の人向けにできるだけシンプルで共感を得やすい内容にしていく方が良いと思う。

【柴田委員】

戦略策定委員会の会議がもう少しあったほうがよいと感じている。これまでの議論だけでは、まだ足りてないように思う。もう数回、このような形で会議の場を設けたほうが良いのではないか。

【事務局:市役所】

本戦略については、今年度末には策定する必要がある。これまでの意見をまとめ上げて戦略に落とし込む中で、時間が限られている現状があるのも正直なところ。

【宗田委員】

市民に共感される戦略にするのであれば、キャッチコピーに対しても、市民の意見を取り入れた方が良いと思う。また市役所職員の意見も聞いてはどうか。

【丸山委員】

例えば、2月末～3月に予定している市民ワーキング会議の第0回目に当たる日に、キャッチコピーについて全体で共有、意見を求めてはどうか。

休憩 10分

【事務局:市役所】

休憩中に事務局で議論を行なったが、先ほどご意見を頂いたように市民ワーキング会議メンバー（市民）の意見、そして市職員にアンケートで意見を求めた上でキャッチコピーを作ることが一番良いと思う。

委員会での意見、市民ワーキング会議の意見、市役所職員の意見、それらをどのような順番で取りまとめ進めていくのがよいか、ご教示いただきたい。

【上田委員長】

市職員アンケートと市民ワーキング会議の後に、委員会の責任で決定するのが良いと考える。

【事務局:いろあわせ】

今日の方向性を踏まえて、デザイナーへの正式な指示をする予定。市民ワーキング会議のメンバーに集まっていたくことを考えると、市民ワーキング会議の開催は2月中旬、第6回戦略策定委員会は2月下旬に開催する運びが良いかと考える。

③その他

【丸山委員】

シティプロモーションにはいろんな定義がある。本戦略における定義について改めて議論することは不要だが、別の考え方をする方に対する説明はあると思っておいた方が良い。

3. 事務連絡等

◆今後のスケジュール(予定)

- ・ロゴ／コピー案 選択肢の完成 2月7日(木)～14日(木)
 - ・市役所職員へのアンケート 2月14日(木)～19日(火)
 - ・第0回市民ワーキング会議 2月14日(木)
 - ・第6回戦略策定委員会 2月21日(木)14時～16時
 - ・最終まとめ → パブリックコメント 2月26日(火)～2月28日(木)
-

4. 閉会

以上